

令和 4 年度 第 10 回 総会資料

令和 5 年 9 月 29 日

一般社団法人国際コーチング連盟日本支部



役員のご紹介



代表理事：紫藤由美子

President: Yumiko Shito, MCC

東京にて就職後、“グローバルなビジネスの舞台で挑戦したい”という強い想いから、20代半ばで単身アメリカ・ニューヨークに移住。12年にわたり、ニューヨークにおいて法人取引を主要事業とする米国不動産企業に勤務。その後、勤務先であるアメリカ企業の日本法人立ち上げのため駐在員として日本に帰国。4年にわたり日本法人の代表取締役を務める。これらの経験の中で、経営者が担う「未来を創造する」責任と、「潜在力を最大限に引き出しての効果的なリーダーシップ」の重要性を強く認識。その後コーチングに出会い、その効果を実感し自らも国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチとなる。モルガン・スタンレーでの職責を経て2013年にヒューマン・キャピタル・アドバイザリー・パートナーズ（株）を設立。組織変革のためのコーチングを展開している。テキサス大学経営大学院修了



副理事長：稻葉 直彦 Naohiko Inaba, ACC

国際コーチ連盟の認定プログラム（ACTP）を修了し、企業での組織マネジメントやリーダーシップにおけるコーチングの有効性を実務で痛感。2015年に株式会社コーポレートウェルネスを設立し、企業・団体向けのコーチングサービスの開発と提供に注力。ICF ジャパンには2015年より運営委員（企画マーケティング担当）として参加。国内企業へのコーチングの普及とプロコーチの地位向上に力を入れている。MBA（経営管理学修士）。



副理事長：田中 智子 Tomoko Tanaka, PCC

総合商社と Goldman Sachs Japan に勤務後渡米。帰国後（株）Oppochu 代表取締役。茨城大・大学院講師。2005年にCTPを終了しコーチとして活動を開始。近年は企業幹部やリーダーの、意識変革やキャリア構築を扱う個別コーチング・研修に多く従事。2007年の準備段階から日本支部の設立に関わる古株だが、今後はICF米本国部と日本を繋ぐことに注力し、日本のコーチやコーチングの意識や質の向上に貢献してプレゼンスを高め、業界を盛り立てていきたい。



理事：荒木 まさえ Masae Araki, PCC

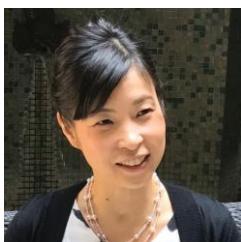
外資系メーカー勤務後渡米。ロサンゼルスで国際ビジネスを経験中コーチングに出会い、テキサス大学の大学院にてエグゼクティブ＆プロフェッショナルコーチングを学ぶ。アメリカ留学およびビジネス経験のみならず、海外生活で培ったグローバルマインドやバイリンガルスキルを基に、グローバル企業のエグゼクティブやリーダーを中心に戦略社会における企業文化形成、人間関係構築や相互理解をコーチングでアシストしている。

今後も「会員価値向上」担当として、ICF 資格説明会、Coaching in English Group 、ICF ジャパン勉強会の開催や、新プロジェクト企画・運営を通して、資格取得サポート、ICF の倫理規定とコア・コンピテンシーの学びの場の提供、コーチングの普及や発展に貢献していきたい。



理事：畠 さち子 Sachiko Hata, MCC

大学卒業後、日本航空（株）大阪支店にて勤務。退職後、子育て関連本の執筆・編集・出版、海外での日本語教師の仕事を経て、帰国後 2002 年よりコーチ 21（現コーチ・エイ）にてコーチングを学び始める。1 対 1 のコーチングセッション、コーチングやコミュニケーション、キャリア系の研修を行う中で、「人の成長をサポートすること」が自分のミッションだと実感する。2016 年に国際コーチング連盟認定プロフェッショナルコーチになるが、それを機に「自分が欲しい学びの場を作りたい」という気持ちが強くなり、自ら勉強会を企画。より多くの人に届くようにと運営委員となり「ICF ジャパン主催コーチングプラクティス」を担当、運営。出身スクールを超えた学びの場の提供、それによって、日本中のコーチが磨き合い、グローバルスタンダードの上質なコーチングが日本で広がっていくようにサポートする活動をしていこうと思っている。



理事：藤井 宏美 Hiromi Fujii, PCC

新卒で銀行にて 5 年間勤務。その後、米国留学を経て外資系会計事務所にて 18 年間勤務。主に、外国籍エグゼクティブの就労・在留資格取得サポート等、出入国管理業務を提供。海外赴任者に対しキャリアの大きな変化を円滑に進められるようなサポートを心がける。そんな中、キャリアの築き方やストレス対応に興味を持ち、産業カウンセリング、キャリアコンサルタント、コーチングを学び資格を取得。その中でもコーチングの効果を体感し、今までの顧客サービスや多様性ある環境での経験を活かし 2020 年 2 月に独立し、個人や企業向けのコーチングやコミュニケーションの研修講師に携わる。

2019 年 1 月より ICF ジャパンの運営活動に参加し、企画運営やプロボノコーチングのプロジェクト運営に関わる。コーチングの更なる普及を通して、社会活動の円滑化に役立ちたい。



理事：藤原 只敏 Tadatoshi Fujiwara, PCC

1954 年長崎県生まれ。NEC にてグローバル市場の電話、携帯など通信インフラ構築に従事、約 50 ケ国での事業経験、関連会社の取締役経験、インド & イギリスでの生活や異文化体験をベースに 2014 年に NEC 初の企業内キャリアコーチに就任し、幹部向けコーチングとメンタリングに従事。コーチ養成機関である CTI での CPCC 取得後、2016 年に ICF の ACC 認定、同年 PCC 認定を取得。2017 年より副業として、NEC 以外の会社に対するエグゼクティブコーチングの提供を開始、2019 年に独立し国内外の複数の人材開発会社、コンサルタント会社との契約に基づき、経営層を対象としたエグゼクティブコーチングを提供している。2019 年から ICF 日本支部の運営委員として日本社会へのコーチング普及に向けてプロボノコーチングプロジェクトの運営に参加している。CTI 認定 CPCC、TLC 認定 TLCCP、Hogan 認定資格、などを保有。

(五十音順、敬称略)

第10回定期総会開催にあたって

非営利型一般社団法人 国際コーチング連盟日本支部
代表理事 紫藤由美子

国際コーチング連盟代表理事、紫藤由美子です。日頃より ICF ジャパンの活動にご理解ご協力ください、誠にありがとうございます。連盟を代表いたしまして、心より感謝申し上げます。

日本特有のコーチングを考える際、最近、日本文化のことを考えます。

日本は、存在する全てのものに神が宿っており、それを八百万の神（やおよずのかみ）として崇めていました。全てのものを受け入れ、感謝し、敬う、という心です。入ってきた異質なものを、排除するのではなく、受け入れて敬うということ、これは日本人の精神文化を作っている礎になっていると思います。これは、コーチングによって創造される協働の意識にも通じているのではないかと思います。

ICF ジャパンではコーチングを通じて、『個人の人生を豊かにする』、『社会を繁栄させる』、『平和な世界を創る』への貢献を目指し、様々な取り組みを行っております。特にこの1年は、会員・資格認定者の増加、会員価値の向上、本部との連携強化、業務の効率化、運営体制の改革など、市場拡大およびコーチ支援強化のための体制を整えるべく、大変革を遂行しています。

その中で、私たちは、『Vision 2030』として[2030 年には日本を世界第二のコーチ大国にする]という目標を立てました。そして、この目標を達成するために、[ICF 認定コーチを 10,000 人にする]という具体的な指標を掲げています。

これは単にコーチの人数を増やすことが目的ではありません。日本に、10,000 人の ICF 認定資格保有コーチが活躍している世界を想像してみてください。コーチングの価値が広く社会に認められ、コーチングの需要が高まり、コーチという職業が認知されている世界が目に浮かんできます。

そして、世界の平和を牽引できるという現実が、コーチングで、そして日本から生まれることでしょう。

私たちはみなさまと共に、理事・運営委員を含めたボランティアがさらに一体となり、コーチングの普及、発展に尽力してまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、私事ではございますが、今期で代表理事を退任させていただきます。ICFJ の理事としては13年、代表理事として6年、長きにわたり大事な役割を担わせていただきました。
この場をお借りし、これまでのみなさまのご支持と信頼に深く感謝申し上げます。

議事

- 1 事業報告
- 2 事業計画
- 3 会計報告・予算案
- 4 決議事項

1 事業報告

1.1 事業実績サマリー

数値実績の推移 : <u>2022年7月</u>		<u>→</u>	<u>2023年7月</u>
本部会員	525名	→	726名
ジャパン会員	198名	→	617名
ICF 資格者	927名	→	1,114名
法人パートナー	34社	→	34社
HoIC メンバー	430名	→	711名

1.2 改革テーマ

前年度の改革テーマに基づいて活動し、以下の成果を得た。1.3以降は No.5 -2) により、新しく設定した運営委員会毎に報告する。

No	テーマ	概要	成果
1	ICF本部と日本支部の会員制度一本化	従来から本部会員と日本支部会員の二重管理となつておらず、会員からは分かりづらくなっていたため、会員制度を一本化する。	本部会員かつ所属支部を日本支部と選択した個人を正会員としてすることで、会員制度を一本化した。
2	会員管理システム構築	会員制度一本化に伴い増加する会員へのサービス充実のため、会員管理システムを導入する。	クラウド型会員管理システム「MiiT+〈ミータス〉」を導入し、会員へのサービス充実を図った。
3	会員規約見直し	日本支部会員の会費を徴収しない方向で会員規約の見直しを行う。また、日本支部活動へのボランティア参画のための社員規定を検討する。	日本支部会員の会費徴収を中止した。また、日本支部活動へのボランティア参画のための区分「フレンズ」を設定した。
4	社会的認知向上、会員価値向上に向けた各種活動の継続強化	国内におけるICFコーチングの認知、日本支部会員であることの価値を高めるための仕組み、各種活動を継続強化していく。	「1.3)」の通り、社会的認知向上、会員価値向上に向けた各種活動の継続強化した。
5	事務局、理事、運営委員の役割、組織体制の見直し	上記改革を具現化するために、日本支部内の機能、役割の見直しを行っていく。	以下の会議体・局を設置、経営陣刷新を目指した。 1) 組織の実質的運営責任を持つ執行会 2) イベント/プロジェクト実行主体として運営委員会 3) 事務局 4) 理事候補推薦選挙の実施

1.3.6 事務局

組織の安定稼働のための仕組み作りを目指した。

必須機能と設定し、手順書を作成した一覧

大項目	中項目	内容
会員管理	正会員入退会の対応	週 2 回のWelcomeメール配信
会員管理	情報の提供	認定者紹介
会員管理	情報の提供	ファクトシート情報のWeb反映
会員管理	情報の提供	メールマガジン配信・記事作成
会員管理	情報の提供	コーチングワールド記事作成
会員管理	情報の提供	問い合わせへの対応
会員管理	情報の提供	公式サイトのお知らせ掲載
会員管理	会員の見える化	賛助会員種別毎に名簿作成
会員管理	会員の見える化	正会員の名簿更新
会員管理	ファミリー/パートナー入退会の対応	審査およびシステム登録とメール対応/Web掲載対応
会員管理	ファミリー/パートナー更新状況管理	月次での請求および入金管理とメール対応
会員管理	その他	CCE発行支援
会計	入出金の実施	申請フォーム（請求書・立替・クレジットカード）で実施、スリム化
会計	損益の把握	現金主義・月次での見える化
会計	源泉徴収	受領請求毎で該当判断し、納税
会計	決算	会計事務所への対応
会計	稼働の安定化	会計事務所との情報共有を強化
会計	イベントとの連携	入金確認/請求書・領収書作成の役割分担
人事・総務	総会の開催	議案書、議事録作成
人事・総務	総会の開催	同意書確保
人事・総務	総会の開催	行政対応
人事・総務	組織情報・ツール・物品の見える化と保管	ITツール（ID、PW、支払い等）の更新管理
人事・総務	組織情報・ツール・物品の見える化と保管	社員・関係者名簿の作成/更新管理
人事・総務	組織情報・ツール・物品の見える化と保管	社員メールアドレス作成/slack招待
人事・総務	組織情報・ツール・物品の見える化と保管	その他物品の保管
人事・総務	契約の対応	契約の見える化と保管
人事・総務	委託契約の更新管理	委託契約の更新管理
人事・総務	ルールの作成	運営委員募集要項
人事・総務	ルールの作成	理事・運営委員同意書の作成
人事・総務	庶務	名刺作成
人事・総務	庶務	会議体のサポート

2 事業計画

2.1 メインテーマ

2.1.1 会員数及び認定者数維持拡大

- ・正会員数を維持拡大し、ICF コーチングの普及をはかる。
- ・賛助会員（ファミリー、パートナー及びワールド）の団体個人を維持拡大する。

2.1.2 会員価値提供に向けた活動

- ・ICF ジャパンとしてチャプター契約の規定、および会員のニーズを検討しながら会員及び資格認定取得希望者に対するイベントを開催する。
- ・ICF グローバルが提供する書籍、動画などの CCE 提供の教材翻訳の促進

2.1.3 広報活動

- ・ICF コーチングの認知向上と ICF 認定取得者の拡大に努める。
コーチング・コンバージ、プロボノコーチング、コミュニティサイト（HoIC）の活用、人事関連の展示会などへの出展など

2.1.4 運営体制強化

- ・事務局に内に企画機能を配置し、ICF コーチングの普及、会員支援、広報戦略等を検討し推進体制を構築する。
- ・会員管理、イベント開催支援など運営体制の強化

3 会計報告・予算案

3.1 会計報告

3.1.1 貸借対照表

令和4年度 貸借対照表

令和5年 7月31日 現在

非営利型一般社団法人 国際コーチング連盟日本支部

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現 金	0	
普 通 預 金	18,361,191	
売 掛 金	0	
流動資産合計		18,361,191
2 投資その他の資産		
敷 金	30,000	
投資その他の資産合計		30,000
資 産 合 計		18,391,191
II 負債の部		
1 流動負債		
未 払 金	253,906	
未 払 法 人 税 等	695,600	
預 り 金	9,188	
流動負債合計		958,694
負 債 合 計		958,694
III 正味財産の部		
1 指定正味財産		0
2 一般正味財産		17,432,497
正味財産合計		17,432,497
負債及び正味財産合計		18,391,191

(正味財産増減の部)			
V	正味財産増加の部		
1	資産増加額		
	当期収支差額(再計)	5, 406, 462	
	現金預金増加額	5, 783, 203	
	敷金増加額	30, 000	
	資産増加額合計		5, 813, 203
2	負債減少額		
	未払金減少額	5, 294	
	負債減少額合計		5, 294
	増加額合計		5, 818, 497
VI 正味財産減少の部			
1	資産減少額		
	売掛金減少額	109, 347	
	資産減少額合計		109, 347
2	負債増加額		
	預り金増加額	9, 188	
	未払法人税増加額	293, 500	
	負債増加額合計		302, 688
	減少額合計		412, 035
	当期正味財産増加額		5, 406, 462
	前期繰越正味財産		12, 026, 035
	期末正味財産合計		17, 432, 497

計算書類に対する注記

- 1 管理費に関しては、非収益部門と収益部門それぞれ収入の比で按分しております。
(非収益部門収入に係る管理費、前期収入計上に伴う貸倒損失、法人税等を除く)
- 2 消費税等の会計処理は税込方式によっております。

3.2 監査報告書

監査報告書

令和5年9月19日

一般社団法人 国際コーチング連盟日本支部
代表理事 紫藤 由美子 殿

監事 大宮政男 

私は、一般社団法人 国際コーチング連盟日本支部の令和4年8月1日から令和5年7月31日までの第10期事業年度の業務について監査を実施し、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、一般に定められた監査手続きに従い、事務局から事業の報告を徴収し、業務および財産の状況を調査しました。

また、決算報告書および事業報告書につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 決算報告書は、決算の状況を正しく示しており、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 事業報告書は、一般社団法人 国際コーチング連盟日本支部の業務運営の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務遂行に関し、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

3.3 令和5年度予算案

(単位:円)		
	賛助会員会費	1,700,000
	受取イベント費	3,500,000
	教材売上(Code CC)	1,500,000
	受取支援金(ICF本部)	2,500,000
	収益計	9,200,000
	イベント業務委託費	500,000
事業費	イベント経費	1,500,000
	小計	2,000,000
	業務委託費 1(事務所運営)	3,600,000
	業務委託費 2(IT,法律顧問、会計事務所など)	1,000,000
	地代家賃	100,000
	事務用消耗品	100,000
	会議費	300,000
	旅費交通費	200,000
	通信費	300,000
管理費	支払手数料	100,000
	諸会費	
	広告宣伝費(展示会参加など)	1,600,000
	交際費	250,000
	支払法人税	800,000
	租税公課	100,000
	小計	8,450,000
	損益	750,000
	正味財産期末残高	18,182,497
	(正味財産期初残高	17,432,497

4 決議事項

第 1 号議案

第 10 期事業報告並びに決算報告

第 2 号議案

第 11 期事業計画並びに予算案

第 3 号議案

定款 26 条 2 項を満たす以下 4 名を理事として選任すること

奥野 雄貴

近藤 公雄

袖川 航平

村井 曜子

付記 定款 13 条 3 項により現理事は全員、社員の地位を喪失する。

以上